

CSR REPORT 2012

社長メッセージ	1
経営の理念	2
特集：千住金属工業の社会への貢献	3
コーポレート・ガバナンス	7
コンプライアンス	8
製品品質	9
紛争鉱物対応	10
環境配慮型製品	11
雇用・人材育成	13
健康・安全	14
温暖化防止と廃棄物削減	15
CSR 調達方針	17
地域社会への貢献	18
会社概要・編集方針	18

社長メッセージ

パートナーシップを深め、 更に強固な信頼関係を築いていきます。

千住金属工業は長年にわたって、社会や環境との調和のとれた事業活動を経営の方針としてまいりました。創業以来 74 年の歩みを振り返りますと、数多くの製品を開発し市場に送り出して、産業界のニーズにお応えしてまいりました。長い年月の中で役割を終えて姿を消した商品がある一方で、新たなニーズによって誕生してきたばかりの商品も数多くございます。

昭和 40 年代の高度経済成長がもたらした最大のひずみの一つは公害の問題でした。公害の予防や対策の必要性から、その基本となる環境測定分野に千住金属工業の使用材料や製品の品質管理の必要から培ってきた分析技術を発展させ、この部門を独立させ株式会社産業分析センターを昭和 47 年に設立し、社会のニーズに応えました。

平成 16 年には EU で河川や地下水の汚染の拡散を防止する措置として、エレクトロニクス機器の生産に不可欠の材料であるはんだも大きな変革をせまられることとなりました。それまでははんだは錫と鉛の合金と決まっておりましたが、主要材料である鉛を使用することが不可能とされ、錫－鉛以外の合金によるはんだの開発が求められました。

エレクトロニクス機器は家庭で使われる電話やテレビや洗濯機など身近なものから、人工衛星を制御する大型コンピューターまで極めて広範囲になりますが、そこで求められる性能や信頼性も多様です。千住金属工業が開発した錫－銀－銅組成の鉛フリーはんだ合金 M705 は、これらの多種多様な分野において汎用性の高いはんだとしてエレクトロニクス業界の要請に沿うものでした。鉛フリーはんだは錫－鉛はんだと物性の面でも異なるところがあり、はんだ付けを行う装置も新たに解決すべき課

題があり、千住金属工業が開発した自動はんだ付け装置ソルゼウスはカーエレクトロニクス製品や産業用エレクトロニクス機器の生産に大きな貢献をしております。

近年の世界経済の発展と人口の増大によって、CO₂ 排出の増加による地球温暖化の原因とされ、CO₂ 排出の抑制は地球資源の有効活用と共に極めて重要な課題です。

千住金属工業は自社工場や事務所の省エネ対策と省資源にも早くから取り組んでおります。

主力工場の栃木事業所には BCP の一環として自家発電装置を導入し、工場使用電力の約 40% をまかなうと共に排熱を利用したコジェネレーションシステムの導入により、工場内の冷暖房に活用しております。

また、発電の燃料を重油から都市ガスに切り換えるなど CO₂ 発生量の抑制に努めております。

さらに主要な設備には電力計を設置し、IT システムによって常時監視しムダな電力使用を防ぐと共にエネルギー効率の悪い設備を更新し、大幅な省エネ効果を実現しております。

今後も、お客様やサプライヤー様とのパートナーシップを深め、更に強固な相互信頼関係を築いてまいります。

代表取締役社長

長谷川 永悦

経営の理念

日々不断に優れた 有用な製品を世に供給 することで、公器として の使命を果たす。

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。

されば先ず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福 — 物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れた有用な製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実させるための必要にして且つ十分なる条件は何か — いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂……まことにこの三ヶ条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。

またこの三条の満たされるところ、そこにはおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日に新たに、また日に新たな開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康な生活の建設に邁進しようではないか。

昭和 35 年 6 月発表

実 力

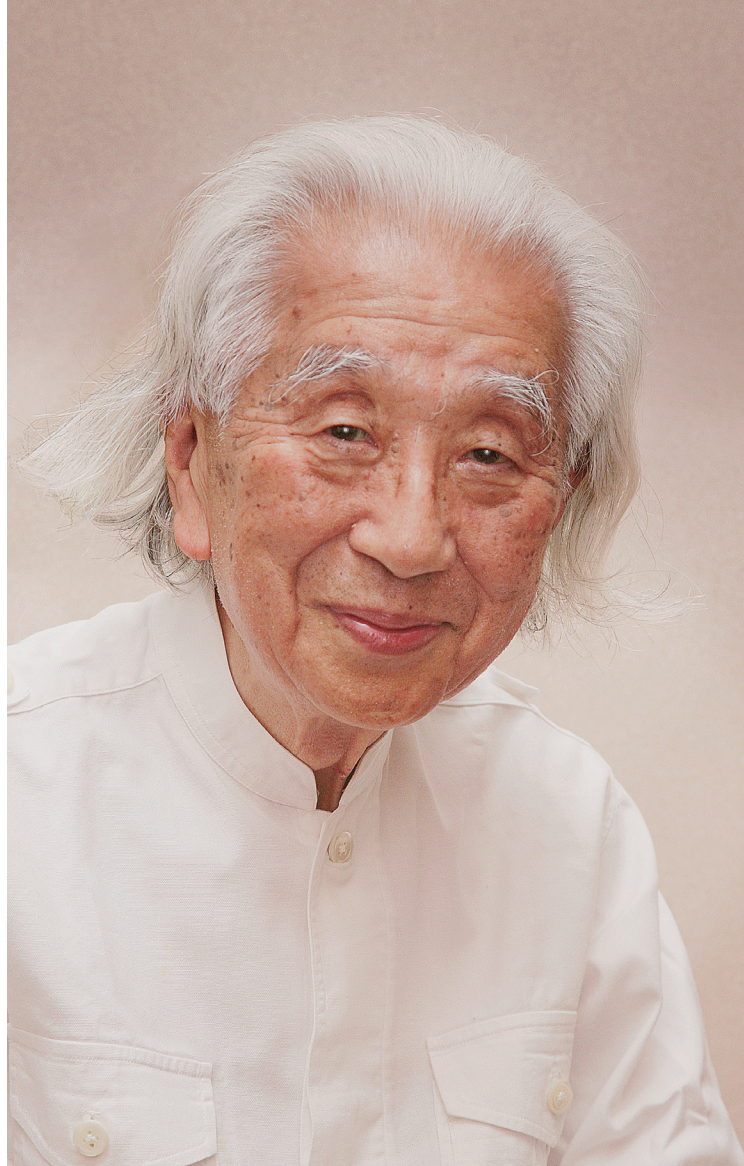
職業人として自己を活かすために
必要な能力、プロになること

誠 実

人間としての良心、正しい心を持つこと

闘 魂

困難なことにも挑戦し、克服すること



故 佐藤 千壽 名誉会長

社長在任期間 昭和 35 年 6 月～昭和 53 年 6 月
会長在任期間 昭和 53 年 7 月～平成 20 年 5 月
名誉会長在任期間 平成 20 年 6 月～平成 20 年 10 月

関連書籍



- 「青年に期待する」
- 「職業と人生」
- 「40年史」〈最大となることを望まず、最良となることを望む〉
- 「45年史」〈挑戦する技術集団〉
- 「70年史」〈日々新たに〉

特集：千住金属工業の 社会への貢献

第1世代前半

1980年

鉛フリーはんだ化への着眼

前会長であった佐藤一策（当時社長）は、自身が若い時代に赴任したドイツで、産業発展に伴う酸性雨による環境汚染の影響で、緑豊かな“黒い森”と呼ばれたシュヴァルツヴァルトの木が枯れる姿を目のあたりにしました。この経験により、千住金属工業は重金属を扱う企業として、地域保護並びに業界保護のため、環境問題に対して危機感を高めなければならないとの強い意志を持つに至りました。当時は社会的に鉛フリー化の活動は一般的ではありませんでしたが、鉛による環境汚染が大きな問題となるといち早く察知し、真摯な態度でこれを受け止め、下記の3項目の実現を市場の要望よりいち早く積極的に手掛けることで、社会貢献を目指しました。



故 佐藤 一策 前会長

社長在任期間 昭和59年7月～平成20年6月

会長在任期間 平成20年6月～平成24年9月

- 1 鉛はんだ問題の情報入手と情報発信
- 2 鉛フリーはんだの開発と実用化
- 3 鉛フリーはんだ量産の設備投資



▲鉛フリーはんだ製品

経営者としての先見的な洞察力と企業努力は、いち早く Sn-Ag-Cu 系の鉛フリーはんだを製品化し、鉛フリーはんだの導入に苦慮している多くのお客様の課題解決に大きく貢献しました。また、千住金属工業はこれを契機に「世界的に飛躍する企業」へと発展しました。

特集：千住金属工業の 社会への貢献

第1世代後半

1990年

鉛フリーはんだの開発・実用化で社会貢献

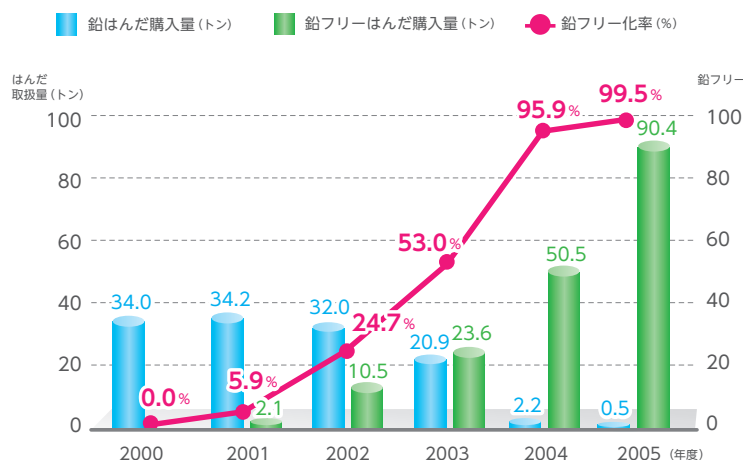


世界の業界標準品の開発

千住金属工業は、5000年続いた鉛を主成分とするはんだから、鉛を一切使わないはんだを開発・実用化することで、「地球環境保護を可能とするはんだ」としての新しい価値を創造し、大きな社会的貢献を果たしました。これは、経営の理念を実践している結果です。

千住金属工業は、「M705」という商品名で世界に先駆けてSn-Ag-Cu 鉛フリーはんだを開発し特許を取得、この特許を公開することで世界の標準的な材料として鉛フリー化が促進されました。この材料を日本のTV大手メーカーが参画した国家プロジェクトの推奨材料となったことも広く普及される結果となりました。

国内のはんだ購入量と鉛フリー化率の推移



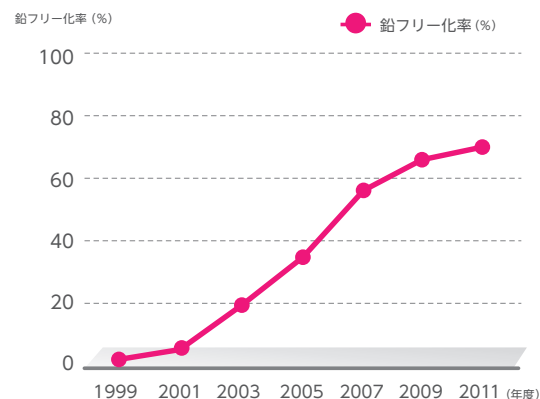
ソニー宮テック様(当時)のご厚意でご提供いただいた鉛フリー化の推移データです。

2000年、部品の耐熱性やはんだ付け性などの課題を解決して鉛フリーはんだが導入され、2005年には、殆どの電気電子機器が鉛フリーはんだ化されました。千住金属工業の開発した製品は、鉛フリー化推進の一役を大きく担っています。

世界の鉛フリー化率の推移

IPC データ

Institute for Interconnecting and Packaging Electronic Circuits



参照：Growth Trend of Pb-free Solder Paste by IPC Data (World Wide Usage)

千住金属工業の鉛フリー化は、世界に先駆けて推進されており、世界各国へ積極的に普及させております。上表が示すIPCのデータでは、世界的にも鉛フリー化が促進されており、2007年には50%を超え、現在では70%を超える普及率となっています。

特集：千住金属工業の 社会への貢献

第2世代

2010年

材料コスト削減で社会貢献

JEITAの第二世代鉛フリーはんだ（低銀はんだ）の開発

鉛フリーはんだ化には、「銀などの高価な希少金属を用いるため高価となる」「溶融温度が高くなり実装温度が上昇する」などの課題もありました。

千住金属工業は、接合信頼性やはんだ付け性を損なわず高価な銀を極力使用しない、低価格な低銀鉛フリーはんだの開発を世界に先駆けて実現しました。また、低銀化に伴い実装温度の上昇が懸念されましたが、優れた合金化技術で従来の鉛フリーはんだと同等の条件で実装できる低銀鉛フリーはんだも開発・実用化しました。

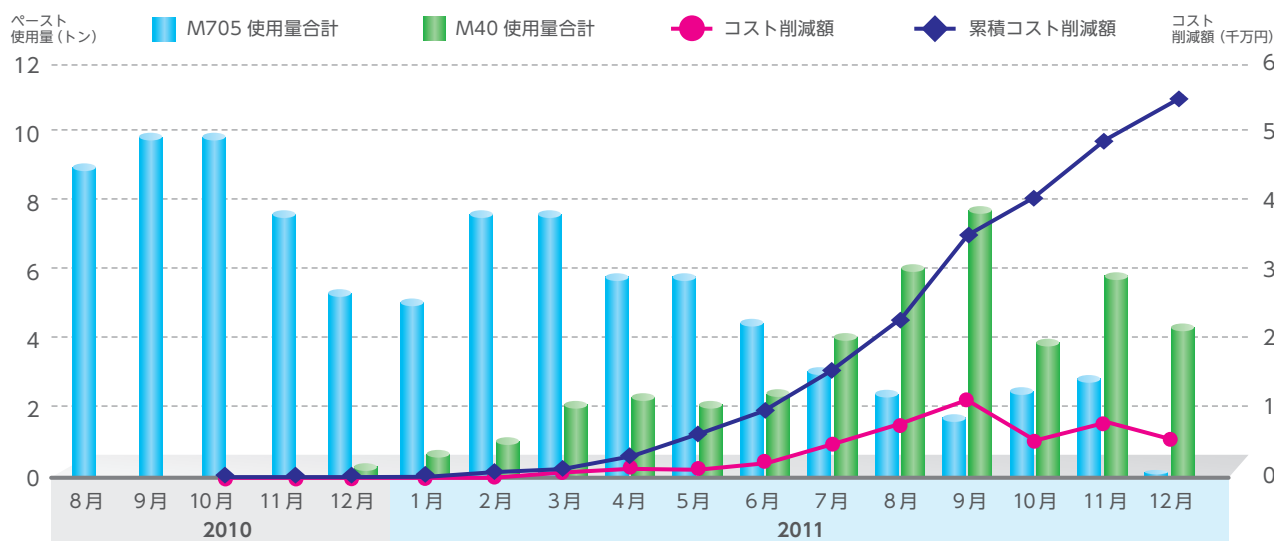
こうした、低銀鉛フリーはんだは、大手日系家電メーカーのテレビなど AVC 機器への採用によって世界に普及され、希少な銀の資源を確保すると同時に、同社の材料費の大幅な削減に寄与し「環境と経済」を両立させました。千住金属工業は、希少金属の保護と材料費のコスト削減で社会に貢献いたしました。



▲低銀はんだ製品（M40/M46）

● Panasonic 様 エクセレントパートナー
技術開発貢献 銀賞

国内の鉛フリー化と低銀はんだの推移



日系大手テレビメーカーのご厚意でご提供いただいた鉛フリー化の推移データです。

低銀はんだを 2010 年 12 月頃から本格的に導入。累計コスト削減額は 5,000 万円を超えます。

特集：千住金属工業の 社会への貢献

第3世代

2013年

省エネ実装で社会に貢献します

千住金属工業は、もう一つの「実装温度の上昇」という課題にも積極的に挑戦しています。市場での鉛フリーはんだ化が定着し、部品の端子めっきに鉛が使われなくなった事で、180℃で実装可能な Sn-Bi系低温実装鉛フリーはんだの採用に加速がついています。

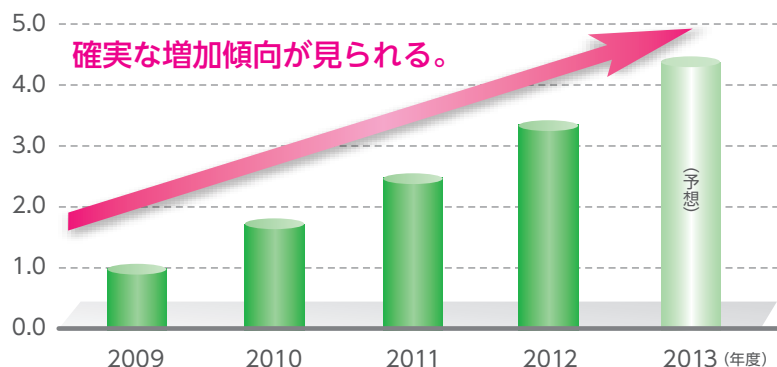
千住金属工業は、フラックス残渣が接合を補強する低温実装用 Sn-Bi系鉛フリーはんだを開発し、同材料の課題を解決する製品を開発するなど、軸足は省エネ実装化に移行しています。



長谷川 永悦 社長
社長在任期間 平成20年6月～

Sn-Bi系低温はんだペーストお客様数（評価中のお客様を含む）

（2009年を1とした比率）

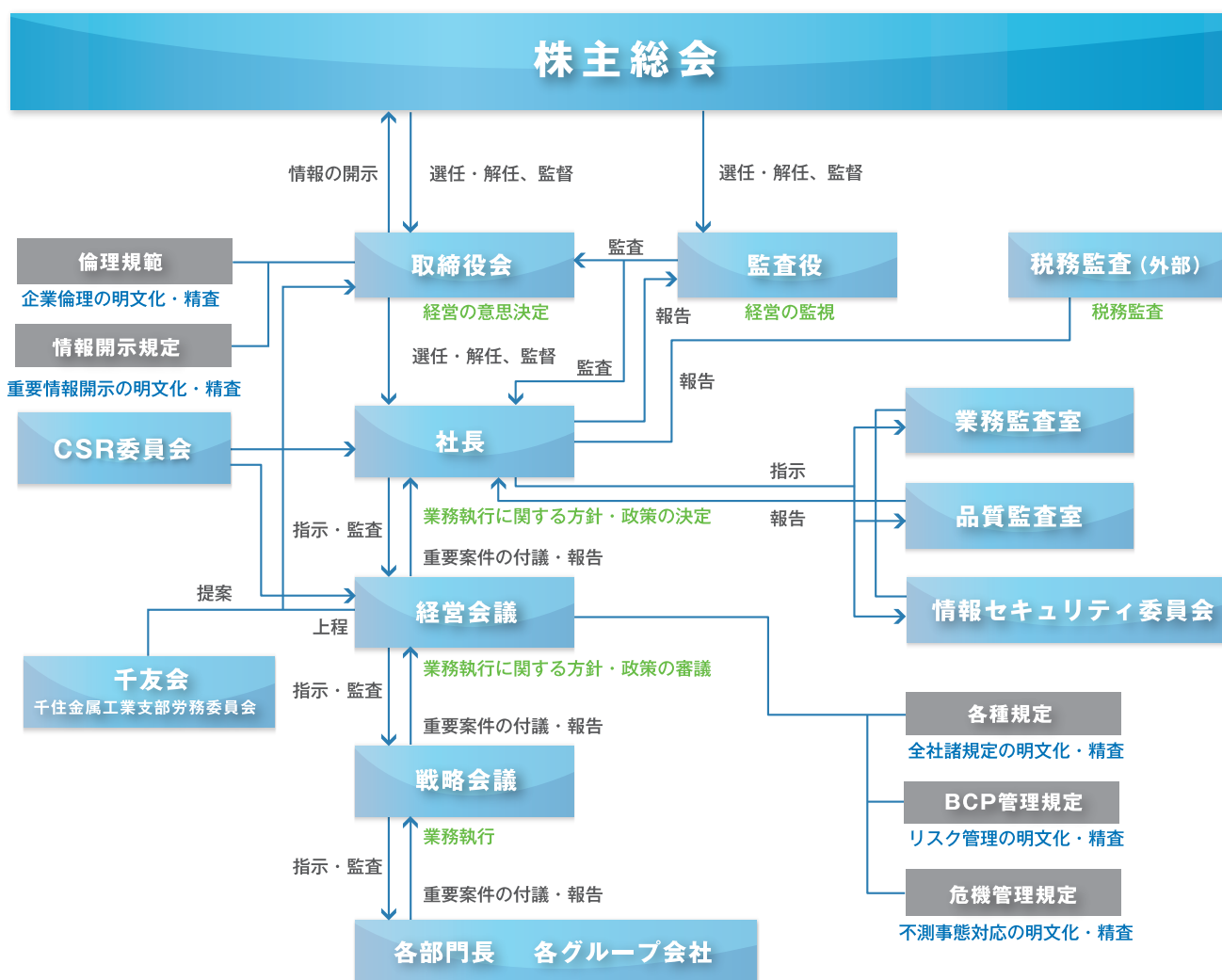


このほか、はんだ付け工程での炭酸ガスなどの GHG（グリーン・ハウス・ガス）排出抑制材料やはんだ付け装置を次々に開発し、カーボンフットプリント（炭素の足跡）など LCA（ライフ・サイクル・アセスメント）を意識した、本格的な環境配慮型製品の創出で社会に貢献し続けたいと考えています。



●はんだテクニカルセンター

多様なはんだ材料を早期に開発するため、本社敷地内にはんだテクニカルセンターを増設し強固なサポート体制を構築しました。



取締役会

取締役9名と監査役2名(内、1名は社外監査役)で構成され、関係法令及び定款の定めるところに従い、千住金属工業経営管理の最高最終の意思決定機関として、法定事項を審議するとともに、会社業務執行上の重要な事項を決定若しくは承認します。

監査役

2名(内、1名は社外監査役)の監査役が選任されています。取締役の職務の執行を含む日常の経営活動の監査を行っています。監査役は、取締役会と経営会議に出席し、違法または著しく不当な決議がなされることを防止する責務を果たすと共に法令に準拠した活動を行っています。

経営会議

取締役、監査役、理事・副理事及び参事により構成し、取締役会の審議決定事項以外の業務執行に関する審議決定を行います。なお、取締役会が審議決定すべき業務執行に関する事項については、必要に応じ事前に経営会議にて検討し、取締役会に上程します。

不正防止

従業員就業規則にてコンプライアンスの重要性を明文化し、従業員はこれらの諸規則を誠実に守り、会社の秩序保持に努めています。又、千住金属工業の事業活動方針「公正取引・倫理」及びCSR実践目標の《倫理》においても、腐敗を防止するために贈収賄の行為を禁じています。

スマイルメール制度

通報相談窓口である「スマイルメール」制度を設置しています。法令違反や社内規定違反等を発見した社員が通報できます。又、通報者のプライバシー保護も徹底して行っております。本制度は公にはしたくないパワーハラスメントやセクシャルハラスメントなどの相談や職場の改善などについての提案も受け付けています。

提案制度

社員が業務や職場の環境・安全等の改善について創意工夫を行い提案することにより、経営に対する参画意識を持ち、提案によって得られた会社の利益について公正に社員へ還元しています。全社員を対象とし、個人・複数名共同・部署単位・グループ活動を通じて提案できます。また、提案内容評価表を全社員が共有化しており、今年度の実績は2,449件を達成しており、最優秀賞のテーマは「過剰梱包削減プロジェクト」で、出荷時の製品計量管理に関する内容でした。

小集団活動

千住金属工業では、全員参加による小集団活動を積極的に展開し、品質や生産性の改善を継続的に行っています。年度初めに経営者から掲げられた方針に基づき、各職場ではテーマに沿った目標を掲げて自主的に活動し、経営者や管理者は各活動を支援します。一つ一つは小さな改善ですが、積み重なれば大きな改善につながり、会社経営のみならず、省エネや社会貢献にもつながっていきます。年度末には全チームの発表会が行われ、優秀なチームには報奨金が支払われ、社員のモチベーションアップに直結しています。



倫理規範

事業活動方針で全体を抑え、CSR 実践目標が個別の目標として EICC に準拠して規定されています。例えば、顧客のプライバシー侵害及び顧客データの紛失に関する正当な根拠のあるクレームの総件数は0件です。(GRI # PR8)

GRI = 国際 NGO の GRI (Global Reporting Initiative) が発行する持続可能性報告のための国際的なガイドライン。
PR8 = 顧客のプライバシー侵害および顧客データの紛失に関する正当な根拠のあるクレームの総件数。

コンプライアンス

【基本方針】

1. 関係法令を遵守し、公正で自由な競争を行い、良識ある企業間取引を行うと共に、誠実かつ公正な企業活動を遂行します。
2. 自社及び他社の営業秘密を適切に管理するための体制及び環境を整備し、運用・維持します。
3. 会計情報を正確に記録し、不適正な会計処理、誤解を招く会計報告を行いません。
4. 輸出入業務にあたっては、輸出入関連の法令を遵守します。
5. 第三者の知的財産権を尊重し、侵害または不正使用を行いません。
6. 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは関係を持たず、賄賂など不適切な利益を目的とした贈答接待の供与・受領をしません。

【実践目標】

1. 事業の誠実性
不正、強要、横領又は偽造の行為を禁止する。
2. 不当利益の禁止
収賄又はその他の不当利益の行為を禁止する。
3. 情報の開示
GRI に基づき、事業活動・組織体制・財務状況等を開示します。
4. 知的財産権
顧客、取引先の知的財産権の保護をします。
5. 公正な事業活動
公正で自由な競争を行い、誠実かつ公正な企業活動を行う。
6. 匿名性の確保
規則違反を報告した労働者の匿名性を徹底する。

製品品質

お客様満足度調査

営業部門から主要顧客様（TS16949 の認証を前提とするお客様を含む）にアンケート形式で、お客様の満足度を調査しています。納品品質、納期実績、市場からの返品を含むお客様が被った迷惑等 10 項目について、5 段階のパフォーマンス指標で数値化しています。また、パフォーマンス指標のみならず、コメントも記入できる調査票を使用しています。最終評価内容は、戦略会議にて報告され、業務改善に役立てています。

千住金属工業は、[ISO9001, ISO/TS16949] 及び、環境マネジメントシステム [ISO14001] の認証を取得しています。お客様の満足度を高め、製品の品質や安全性を確保するための品質保証システムを確立し、運用・維持します。このため、ISO/TS16949 及び ISO9001 にもとづく品質マネジメントシステム（QMS）を品質保証の基礎とし、このシステムを有効に運用することによって、製品の品質維持・向上に努め、より一層お客様の安心と信頼を高めていきます。

規格	サイト	認証範囲	登録日	認証機関
ISO/TS 16949	栃木事業所（はんだ）	はんだ合金（棒、糸、線、インゴット、粉末）・やに入り線はんだ・溶ダペースト・溶ダボール・プリフォーム溶ダ・フラックス及びはんだテープの設計・開発及び製造	2004.6.25	JQA
	関西事業所	はんだテープ・フラックス及び溶ダペーストの設計・開発及び製造	2011.7.8	
	千住電子工業	溶ダボールの設計・開発及び製造	2004.6.25	
	栃木事業所（軸受）	巻きブッシュ・ワッシャー（スラスト、ガスケット、シム、カウンターギヤ）、スワッシュプレート及びクリーンメタルの設計・開発及び製造	2005.9.22	
ISO 9001	栃木事業所・関西事業所、千住電子工業・千住技研（はんだ）	はんだ合金（棒、糸、線、インゴット、粉末）・やに入り線はんだ・溶ダペースト・溶ダボール・プリフォーム溶ダ・フラックス及びはんだテープの設計・開発及び製造	1994.10.21	JQA
	栃木事業所（軸受）	自動車用巻きブッシュ、ワッシャー（スラスト、ガスケット、シム、カウンターギヤ）・スワッシュプレートとクリーンメタルの設計・開発及び製造	2002.11.22	
	本社・草加東工場	はんだ付け装置の設計・開発、製造及びサービス	2004.4.16	
ISO 14001	栃木事業所・千住電子工業 千住技研	はんだ及びはんだ付用フラックスの製造・自動車用巻きブッシュ・ワッシャー（スラスト、ガスケット、シム、カウンターギヤ）・スワッシュプレート及びクリーンメタルの製造・分析及び試験	1999.11.12	JQA
	関西事業所	はんだ及びはんだ付用フラックスの製造	2007.7.20	



JQA-AU0044（はんだ部門）
JQA-AU0097（軸受部門）



JQA-0644（はんだ部門）
JQA-QM-9061（軸受部門）
JQA-QMA11284
（本社、草加東工場）



JQA-EM0578（栃木事業所、千住電子工業㈱、千住技研㈱）
JQA-EM5868（関西事業所）



錫の精錬所の自主監査

紛争鉱物対応

千住金属工業の紛争鉱物対応は、2010年7月に米国金融規制改革法（ドッド・フランク法）が成立した1年前の、2009年にさかのぼります。紛争鉱物によって引き起こされる人権侵害に加担しないために、すべての錫調達先精錬所の実地監査を行い、DRC 及びその周辺国を原産とする鉱物の不使用を確認し、紛争鉱物不使用を宣言しており Web サイトにも記載しています。



精錬所と長年にわたる取引、信頼関係を構築してきたことを生かし、紛争鉱物についても密なコミュニケーションを図って対応をいたしております。

また、EICC 紛争鉱物ワークショップ、NGO 主催のシンポジウム、ラウンドテーブル、JEITA 主催の会合等に積極的に参加する等、様々なステークホルダーとの対話を大切にしています。



千住金属工業は2011年1月に EICC（電子業界 CSR アライアンス）に加盟し、EICC 行動規範に賛同し、CSR 問題に積極的に取り組んでいます。2012年は、内部監査スタッフが国内事業所・営業所において CSR 実地監査を実施しました。海外子会社である中国4工場を訪問し、EICC SAQ（Self-Assessment Questionnaire：自己評価シート）に基づいて CSR 監査を実施し、CSR 上の問題がないことを確認しています。



海外子会社に対する CSR 監査



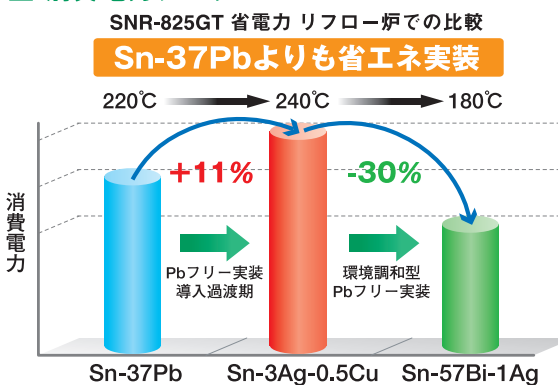
環境配慮型製品

千住金属工業は、1990年代後半から環境負荷物質である鉛を排除した鉛フリーはんだを世界に先駆けて製品化し、グローバルに展開して今や世界中で標準はんだとして広がっています。その後もお客様の声を聞きながら、機能や性能、品質において、環境負荷の少ない商品を提供するために、環境に配慮した製品開発を継続しています。

材料開発では製造及びお客様の生産現場で省エネルギーを実現できる低温はんだ材料の製品化、エネルギーの使用量を最小限に抑える局所加熱に対応したリングはんだ、チップソルダー、ヤニ入りはんだ、ディスペンスはんだなどの製品化、従来よりも大幅に消費電力を抑えたリフロー装置、さらには VOC フリーフラックスなど様々な角度から環境に配慮した製品開発に取り組んでいます。千住金属工業は、今後お客様の声を真摯に聞きながら、さらなる環境に配慮した製品開発に取り組めます。

低温域でのリフローが可能になる低温ペースト

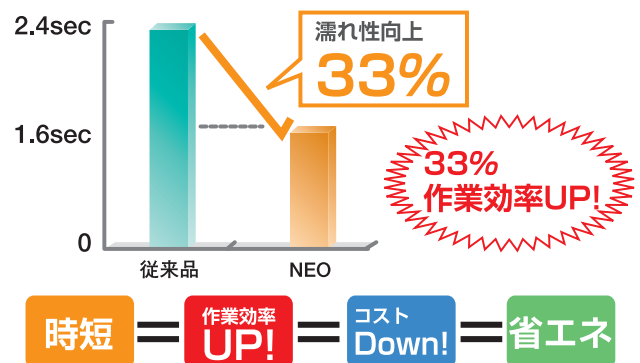
消費電力データ



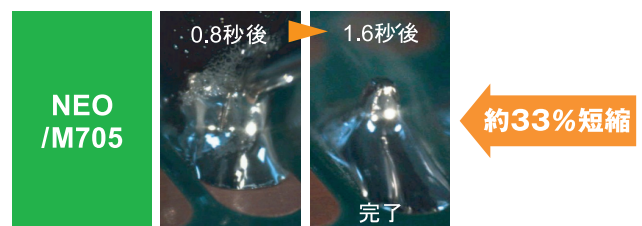
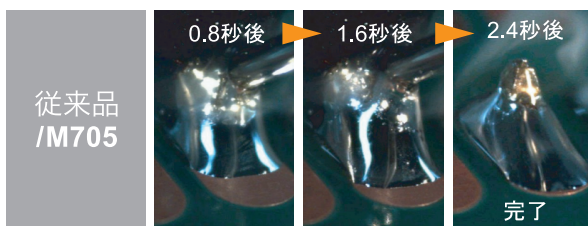
作業効率を 33%UP。

フラックスの改良により濡れ性改善しはんだ付け時間を短縮

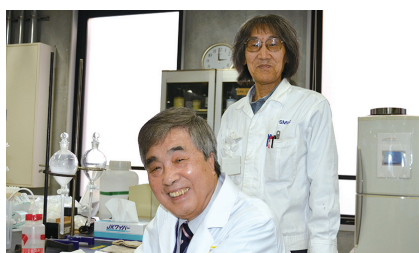
作業効率33%UP！



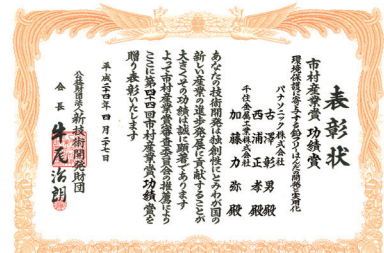
良好な濡れ性で、高効率生産を支援



鉛フリーはんだの開発と実用化で市村産業賞 功績賞を受賞



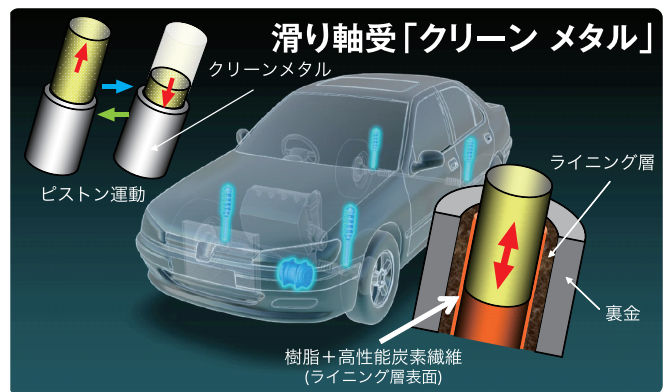
▲ (左) 田口研究所 所長 (右) 加藤技監



鉛フリーはんだを標準化した功績が認められ、パナソニック株式会社様と共に表彰されました。

鉛フリーすべり軸受（クリーンメタル）

千住金属工業の軸受事業部はお客様に対して安心・安全な製品を提案しています。特に自動車部品に関しては、安全性が重要視され、このニーズに日々答え続けるために、技術開発及び品質管理を徹底しています。例えば、自動車の足回りに搭載させる部品：ショックアブソーバー用のガイドブッシュには乗り心地の良さが求められ、弊社のクリーンメタルが使用されています。



クリーンメタルは、複合軸受材料及び固形潤滑剤の優れた諸

性質を結合して生み出されたすべり軸受であり、主として低摩擦係数を持ったフッ素樹脂（PTFE）をベースとしています。従来は潤滑剤として優れた性能を発揮する鉛を添加していましたが、環境対応として鉛に変わる添加剤を使用することにより、環境に影響のある鉛を使用しない軸受を開発いたしました。この軸受は、鋼裏金に青銅粉末を焼結した多孔質層に樹脂を含浸させて作り出された複合体軸受です。従って軸受面は、摩擦係数の低い樹脂層になっていますので潤滑油は不要です。また、潤滑油の漏出による汚染の心配がないので、マッサージチェアや介護用ベットにも利用されています。



クリーンメタルの断面構造

裏金に青銅合金（黄色部分）を焼結により拡散接合しつつ多孔質層を形成し、樹脂（緑色部分）を含浸した複合材料



クリーンメタル製品例

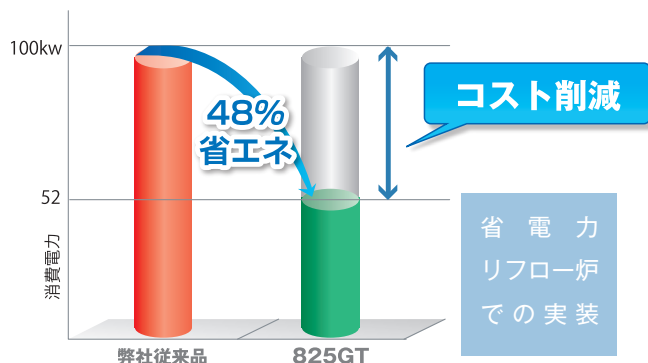
はんだ付け装置

千住金属工業のFA装置部門は、お客様の声を生かしながら設計・製造しています。近年ご要求が高まっている省エネルギーに関しては、基板への部品実装に使用される窒素雰囲気リフロー炉「GT シリーズ」を開発し、「電力量」と「窒素量」の削減を実現しました。また、電力量の盲点でもある「設備の立上げ時間」の削減を図っています。

電力量は、熱風の直進性を高めたクロスノズルの開発によって熱効率を上げ、送風モータの負荷を低減し、独自の断熱構造設計で効率を上げ、性能は落とさずに電力量35%を削減する事に成功しました。また窒素量は、リフロー炉内の雰囲気より安定化させるラピルス効果で、34%の削減を達成しました。



省エネルギーを実現したリフロー炉



“ 新型ノズルの開発と独自の断熱構造設計 ” で実現

省電力 リフロー炉



雇用・人材育成

育児休暇制度・介護休暇制度・嘱託制度

育児休暇制度は育児・介護休業法に基づき、従業員が仕事と家庭を両立出来るよう制度化しています。育児のための休業、所定外労働の免除、育児・介護のための時間外労働の制限、育児・介護のための深夜業の制限、育児・介護のための勤務時間の短縮等の措置を講じています。また、嘱託制度は高齢者雇用安定法に基づき、60歳に達した定年退職者に対して、本人の希望があれば、嘱託として再雇用し、雇用確保措置を講じています。

■1歳までの大切な絆



ボール製研グループ
石井 昌美

子供が1歳を迎えるまでの大切な時期に自分で子育てをして成長を見守ることが出来て良かったです。1年間休業することができ、産後の体調も順調に整えることもできました。また仕事を辞めるわけではないので再就職などの心配もなく、安心して子育てに専念することができました。

復職してから、元の業務に戻ることができました。復職後は子供の急病等で会社を休まざるを得ないこともあり職場の仲間に迷惑をかけることもありますが、皆温かい気持ちでフォローしてくれるので大変助かっており、感謝の気持ちでいっぱいです。

■キャリアと家庭の両立



はんだテクニカルセンター
浅見 愛

長男の出産時に出産休暇と育児休業を合わせて約1年間取得しました。子供が大きく成長する貴重な1年間を一緒に過ごせたおかげで、子供との絆ができました。復職後は新しい仕事にもチャレンジでき、業務の幅も広がりとでも感謝しています。子育て中は、急病等会社を休まざるを得ないことが多く、職場の理解がなくては務まりません。時短制度により1時間早く帰宅できて、「とても働きやすい環境」を提供していただいております。理解を得るためには日頃の業務報告等、上司や同僚社員とのコミュニケーション努力が大切だと考えます。今後もコミュニケーションを大切にし、日々の業務と育児の両立に努めていきたいと思っています。

人材育成プログラム

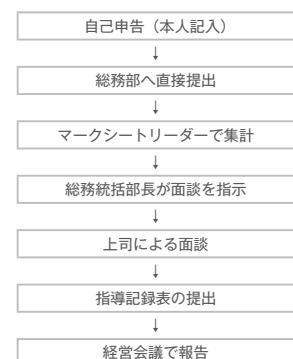
プログラム名	対象者	受講時間	延受講時間
①新入社員入社前研修	新入社員	32H	768H
②新入社員フォロー研修	新入社員	14H	336H
③財務の基本研修	基本的に全員	14H	98H
④現場の原価研修	製造部勤務者	15H	---
⑤マネージャー研修	課長、所長クラス	15H	180H
⑥ビジネスマナー研修	営業アシスタント	6H	90H
⑦新・営業マン研修	営業担当者	15H	---
⑧新ものづくり現場改善研修	製造部勤務者	64H	1,280H
⑨ものづくりロス改善研修	製造部勤務者	16H	288H
⑩中堅社員研修(キャリア形成)	入社3年以上40歳未満	15H	555H
⑪製造マンの品質管理研修	製造部勤務者	15H	---
⑫e-ラーニング	社員、パートナー全員	85.5H	15,011H
⑬考課者研修	部長、課長	3H	---
⑭メンタルヘルス研修	社員全員	7H	---
⑮情報セキュリティ教育	新入社員、社員	1H	24H
⑯その他必要な教育・研修			---
		合計	18,630H

12月1日現在 正社員数723人+パートナー社員数119人=842人
18,630H÷842人=21.8H 一人あたりの受講時間は21.8H
---:計画中



自己申告制度・ハラスメント禁止・相談窓口

毎年12月に全社員へ85項目の質問(マークシート方式)を実施し、会社全体が「経営の理念」に沿った運営がなされているか、また、社員個人が将来に向けて、どのような仕事をしたいのか、或いはどの様な仕事をさせたら良いか、更に一人一人がどの様な職場環境を望んでいるのか等を判断する重要な資料とすることを目的としています。また、自由記述欄では意見、苦情、希望などを記入できる様になっています。ハラスメント禁止:就業規則(服務規律)には、セクシャルハラスメント及びパワーハラスメントの禁止を謳っています。ハラスメントに関する苦情・相談に対応するため相談窓口(メールアドレス)を設けています。



健康・安全

健康診断の充実

従業員の健康維持管理を目的として、年定期健康診断のほかに、年2回の成人病検診（労働安全衛生法は年1回の実施義務）を実施しています。

ガン保険制度

社員（役員及び25歳以上の正社員）の福利厚生制度の一環として、保険料は会社が全額負担してガン保険に加入しています。社員の不慮のガン罹病に対して、その治療費負担を軽減し、生活の安定を図ることを目的としています。



快適な社員食堂

調理は社員が行い、栄養バランスに配慮し、毎日のメニューも工夫し、季節ごとの食材も活用して美味しい食事を提供しています。複数のメニューから好みにより選択しています。食堂を開設している本社と栃木事業所は構内のビルの最上階に食堂があり、眺望360度の窓外の景観を楽しみながら同僚達と憩いの時を過ごせる様にしております。

労働安全

安全衛生委員会は、工場内の安全衛生巡視活動を定期的に行い、新規設備導入時の安全検収や21種類の特定業務に従事する有資格者の定期的な訓練や教育を行っています。

対象業務に従事する従業員は、年2回の特殊健康診断の実施や作業環境の測定等を行っております。

社員の安全確保並びに健康管理、疾病予防、災害ゼロから危険ゼロを目標に努力しております。



温暖化防止対策



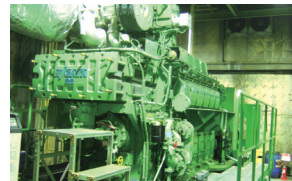
発電機建屋

栃木事業所電力監視モニターの設置

生産設備や空調、照明機器等、すべての機器類の消費電力を常時監視しております。電力モニターを各工場に設置し、高圧変電所や発電所、分電盤から送られるデータをリアルタイムで監視することにより、電力の無駄を削減して省エネルギーと温室効果ガス削減に取り組んでいます。また、自家発電装置はコージェネレーション機能を備えており工場内の冷暖房管理にも活用し電力削減に総合的に活用しています。軸受製造ラインでも、新型の省エネ対応焼結炉が稼働しています。



電力モニター



発電機



新型焼結炉

エネルギー消費量と削減目標

□ 電力の削減（栃木事業所）

目標 省エネ活動による電力量 288,744kwh 削減（2012年までに2008年比1.2%削減する）

2008年（基準年）	実績	24,062,000kwh
2011年	削減量	335,970kwh（CO ₂ 換算：138t-CO ₂ ）
2012年	削減量	265,714kwh（CO ₂ 換算：109t-CO ₂ ）9月までの実績値

□ 温室効果ガス削減（対象事業所：千住金属工業国内全事業所、千住電子工業、千住技研）

2011年（基準年）	実績	18,698t-CO ₂
2012年	実績	18,022 t-CO ₂
2013年	目標	18,324t-CO ₂ （2%削減を目標とする）

※燃料等の係数は温室効果ガス排出量算定報告マニュアル数値を使用。

購入する電力は GHG プロトコル国別排出数値を使用。

□ 一次エネルギー源毎の直接的及び間接的エネルギー消費量（2011年）

都市ガス	2,172千m ³
A重油	149KL
LPG	79t
ガソリン	156KL
軽油	4KL
灯油	21KL

電力会社よりの買電 31,199MWH

水の削減

2011年の栃木事業所における水の使用量は573,199m³です。主に設備の冷却用を使用しており、リサイクルおよび循環水の割合はそのうち21%です。削減目標は2012年までに循環水の比率を3%向上させることとしています。2011年は1.92%、2012年は9月までに1.15%を削減しております。

環境負荷物質の削減（栃木事業所）

■ジクロロメタン	全廃（2009年度完了）
■HCFC-225	全廃（2009年度完了）
■ジオクチルフタレート（DOP）	全廃（2009年度完了）
■フッ化水素酸	全廃（2011年度完了）

廃棄物の削減

□ 栃木事業所

2011年度（2011年4月～2012年3月）の廃棄物排出目標は、事業所からの総出荷重量に対する廃棄物の重量比率を0.90%以下としており、実績は0.89%でした。

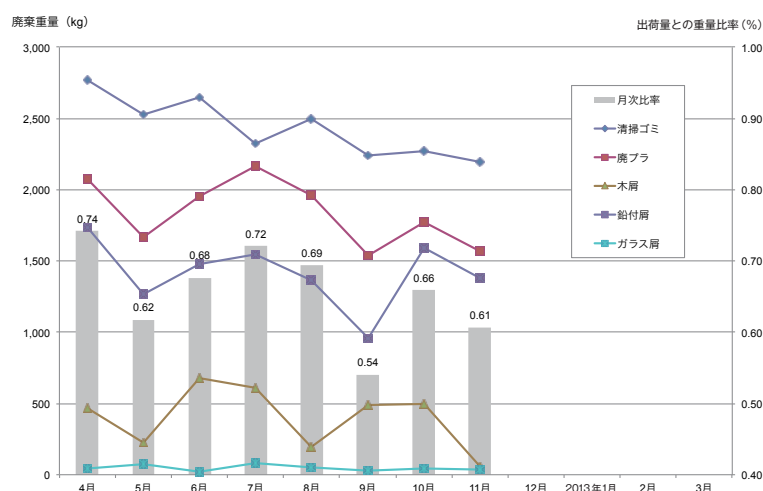
2012年度の目標は、当初同重量比率を0.88%以下にしておりましたが、リサイクルの比率を上げることにより2012年6月より同比率を0.68%以下に修正いたしました。

□ 千住電子工業

2011年度の廃棄物排出目標は、総出荷重量に対する廃棄物の重量比率を3.56%以下としており、実績は2.44%でした。2011年度におきましては東日本大震災による影響で通常と生産状況が大きく異なったため、排出実績が例外的に少なくなりました。

2012年度の排出目標は同重量比率を3.16%以下に定めております。

栃木事業所の2012年度 廃棄物管理状況



	2011年度 目標	2011年度 実績	評価	2012年度 目標
栃木事業所	0.90% 以下	0.89%	達成	0.88% （5月まで） 0.68% 以下（6月以降）
千住電子工業	3.56% 以下	2.44%	達成	3.16% 以下



栃木事業所屋根の断熱塗装

工場棟の屋根に遮熱・断熱塗装を施工し、太陽エネルギーによる浸入熱を大幅にカット。冬季には工場内の温度低下の緩和と夏季には空調負荷低減による省エネ、温室効果ガスの排出削減を行っています。



生物多様性（溪流魚産卵床作り）

社内クラブ活動の一環で、有志による地域漁協に協力し、溪流魚の産卵床作りを行っております。年々水質環境が変化する山岳溪流域で、溪流魚の自然産卵を助け、在来種の保護活動を行っています。

CSR 調達方針

1. 購買方針

(1) 購買姿勢

千住金属工業の購買部門は、仕入先様に対して礼儀を重んじ、公平かつ誠実に対応いたします。

- 社会人としての良識とマナーをわきまえ、責任をもって、購買業務を遂行いたします。
- 仕入先様と友好的な関係を保ち、仕入先様との間で、私的な利害関係を一切もちません。
- 法令・規則、社内規定を遵守し、社会倫理にしたがって業務を遂行いたします。

(2) 仕入先様との取引にあたって

- 仕入先様の選定に際しては、品質、価格、納期、供給の継続、環境保全、財務、人権や労働安全衛生などへの配慮、IT導入への対応等合理的な基準に基づいて公正・公平に評価・選定致します。
- 仕入先様から金銭物品の贈与を受けたり、私事を依頼したりいたしません。
- 仕入先様から社会的常識に反する供応、接待をお受けいたしません。
- 仕入先様に対して、千住金属工業製品の購入を強制いたしません。
- 仕入先様より機密と定めて提供頂いた情報は、厳格に管理し、機密に保持いたします。
- 常に環境保全に配慮した「グリーン調達」を推進いたします。
- 仕入先様の未公開株式を取得し、また、一般公開されていない情報をもとに、仕入先様の株式を購入いたしません。
- 万が一、事故・苦情が発生した場合は、常に迅速な対応を取り、再発防止を徹底いたします。

2. 仕入先様に求める基本姿勢

千住金属工業がグローバルに事業を展開するにあたっては、千住金属工業のみならず、仕入先様も含めたサプライチェーンにおいて、社会的責任を果たすことが求められます。つきましては、仕入先様におかれましては、下記の項目を実行されるよう、お願い致します。万が一、これらの規範に反する問題が起こった場合は、速やかに千住金属工業に報告するとともに、改善対応を実施下さいますようお願い致します。なお、問題の内容によっては、仕入先様との取引を停止あるいは縮小させて頂く可能性もございますので、CSR（企業の社会的責任）上、問題のない事業活動をお願いします。

(1) 法令・社会規範の遵守

仕入先様が事業活動を行っている国・地域において適用される法令・社会規範の遵守をお願い致します。

- [1] 法令（各国・地域の独占禁止法、商法、下請法、外為法、個人情報保護法、著作権法、労働関連法、安全衛生に関する法令、環境に関する法令など）の遵守
- [2] 児童労働・強制労働の禁止
- [3] 人権、性別などによる差別の禁止、社員個人の尊厳の尊重
- [4] 安全で清潔な作業環境の実現
- [5] 贈収賄、不公正な行為の禁止

(2) 健全な事業経営の推進

継続的な取引を行い、相互協力・信頼関係を築くために、健全かつ公正な事業経営の推進をお願い致します。また、千住金属工業に対し仕入先様の運営方針・経営状況（財務状況を含む）の適正な情報を開示下さいますようお願い致します。

(3) 品質・納期・安定供給の重視

千住金属工業は、より良い品質の製品をタイムリーに顧客に提供するために、品質・納期を重視しています。従いまして、定められた品質・納期を遵守し、定期的に資材を供給できる仕入先様との取引を求めています。

(4) 事業継続計画（BCP）の重視

千住金属工業は、自然災害、地震、火災、爆発、感染症などの緊急事態に備えて、企業活動を中断させる不測の事態の発生に備えております。従いまして、平時から仕入先様と事業継続に関する情報交換を行うなど、千住金属工業の事業継続計画の取り組みに積極的に協力出来る仕入先様との取引を求めています。

(5) 環境への配慮

千住金属工業は、より環境影響の少ない製品を顧客に提供するために、グリーン調達を重視し「持続可能な開発」の実現のため、環境の健全性の維持・保全活動を推進しております。従いまして、管理体制が整備された、環境影響の少ない資材を提供できる仕入先様との取引を求めています。

(6) 社会的紛争がある地域からの調達の禁止

千住金属工業は、原材料をめぐって重大な社会的紛争がある地域からの調達を禁止します。従いまして、仕入先様においても原材料をめぐって重大な社会的紛争がある地域から調達しないようお願いします。

(7) VE（Value Engineering）活動の重視

千住金属工業の関わる産業分野は技術革新と商品ライフサイクルのテンポが非常に速い分野です。又、価格競争も激しく、常に顧客ニーズに応える新商品の開発と価格の提供が基本となっています。VE活動による新資材の提供、コストの改善ができる仕入先様とお取引を求めています。

(8) 情報提供の重視

千住金属工業の関わる産業分野は、常に技術革新が激しくこれらへの対応が最も重要な課題です。又、地球環境保護に関する法規制や環境に関する顧客からの要求も年々厳しくなっています。そのためには、常に新しい技術、新しい商品（資料）の情報入手が必要です。そこで、これら情報が提供できる仕入先様との取引を求めています。

(9) 資材調達期間短縮取組の重視

千住金属工業の関わる産業分野は技術革新と商品ライフサイクルのテンポが非常に速いので、お客様のご要求の変動に敏速、柔軟に対応することでお客様に満足いただけるよう資材調達期間短縮を最重点課題の一つとして位置付けています。そのために、市場の変化に敏速・柔軟に対応し資材調達期間を短縮できる仕入先様との取引を求めています。

(10) 機密の厳守

千住金属工業は、お取引に必要な情報はできる限り仕入先様にご提供できるよう心掛けています。従いまして、ご提供する情報の中には、千住金属工業の企業機密に関する情報も含まれています。入手されました情報の機密が守られる仕入先様との取引を求めています。

(11) IT活用推進の重視

IT、ネットワークを活用した仕入先様との情報交換は業務のスピードアップ、仕入先様との関係強化に今後不可欠と考えております。そのために、IT環境の整備と活用を推進いただける仕入先様との取引を求めています。

(12) 情報セキュリティ

千住金属工業は、コンピュータ・ネットワーク脅威に対する防御策を講じて、自社及び他者に被害を与えないよう管理しています。又、個人情報、顧客・第三者の機密情報についても適切に管理・保護しています。従いまして、情報セキュリティについて適切な管理をする仕入先様との取引を求めています。

(13) 反社会的勢力の排除

千住金属工業は、暴力団を始めとする反社会的勢力と関係のある企業とは、お取引を致しません。仕入先様においても、反社会的勢力との関係のある企業とはお取引しないことを求めます。

(14) 社会貢献

千住金属工業は、地域社会及び関係業界と交流を図り、地域及び諸団体の活動に積極的に参加します。仕入先様においても、経営資源を活用したコミュニティへの支援活動をお願いします。



地域社会への貢献



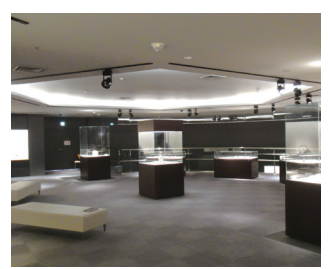
真岡市盆踊り大会（栃木事業所）



西脇市・多可郡 新人高校駅伝（関西事業所）



社員による周辺道路の清掃活動（千住電子工業）



石洞美術館（本社内）



茶館妙好（みょうこう：本社）

茶館妙好（みょうこう）は、足立区の障がい者支援団体「友愛会」が、障がいを持つ方の自立訓練及び社会参加の場として運営する喫茶店です。2005年に新本社社屋建設計画の一環として、敷地内に開設し、地域への社会貢献として提供しています。障がい者の方が働いている事業所で作られたパンを提供しているほか、障がいを持つ方が土日祝日を除き、毎日元気に働いています。千住金属工業は「友愛会」の活動を支援するために、建物を無料で提供し、来客時のデリバリー・サービス等で活用し援助しています。

【会社概要・編集方針】

千住金属工業株式会社（SENJU METAL INDUSTRY CO., LTD.）DUNS# 690663091

本社所在地 〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地

【事業内容】

- ① 金属の溶解、合金、鋳造、展伸、加工品の製造・販売
- ② 金属の粉末及び軸受の製造・販売
- ③ はんだ付用溶剤並びに接着剤の製造・販売
- ④ 消火装置部品の製造・販売
- ⑤ 前記に関連する機械設備の製造・販売

【事業展開している国と拠点】

アジア	8ヶ国	シンガポール・マレーシア・タイ・フィリピン・韓国・中国・香港・台湾
ヨーロッパ	4ヶ国	イギリス・ドイツ・イタリア・チェコ
アメリカ	3ヶ国	アメリカ・メキシコ・ブラジル

地域別拠点数	日本	アジア	ヨーロッパ	アメリカ
製造拠点	6	11	1	2
営業拠点	12	14	4	6

国内主要納入先：200社 海外主要納入先：1500社

【事業規模】

従業員数：950名（国内）

負債合計：16,658百万円（2012年3月31日現在）

売上高：56,345百万円（2011年4月1日～2012年3月31日）

純資産合計：31,857百万円（2012年3月31日現在）

経常利益：2,166百万円（2011年4月1日～2012年3月31日）

資産合計：48,515百万円（2012年3月31日現在）

【編集方針】 千住金属工業グループの重要課題と社会的要請の高い項目について誠実に報告するよう努めています。CSRレポートの発行にあたって、ステークホルダーの皆様と弊社の双方が重要と考える事項という観点で、報告内容を吟味・検討し、その結果を報告いたします。

【対象期間】 2011年4月1日～2012年3月31日（一部2012年3月以降の最新情報も含みます）

【対象範囲】 グループ会社27社（非連結子会社と関連会社を含む）。ただし、環境活動は別途明記

【対象変動】 連結子会社の増加・減少はなし

【加入団体】 EICC・日本溶接協会・JEITA・JAPIA・東京経営者協会・商工会議所・東京はんだ組合等

【履歴】 今回：2012年12月（次回：2013年12月予定、前回：なし）

【次回発行予定】 2013年12月

【参考ガイドライン】 GRIガイドライン・環境報告ガイドライン・ISO 26000

【免責事項】 この報告書には、千住金属工業の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。これらの記述は、千住金属工業が現時点で把握可能な情報から判断した事項及び所信に基づく見込みです。

千住金属工業グループのCSR情報 <http://www.senju-m.co.jp/csr/index.html>
メールアドレス web@senju-m.co.jp

SMIC